

学校だより 「花里の子」

令和5年度 第13号

伊丹市立花里小学校長

小木曾 笑子

運動会に向け 目標をもって頑張ろう！

長袖の服を着て登校する子どもたちが増えてきました。朝夕と昼間の気温差が大きく、体調管理が難しい季節ですが、子どもたちは、元気よく運動会の練習に励んでいます。お茶の準備や体操服の洗濯、体調管理とさまざまな面でご支援いただいていることに感謝しています。

それぞれの学年団が、子どもたちの発達段階に応じた演技を考えました。練習が進んでくると、先生からの要求も高くなってきます。「この子たちならできる!」と子どもたちを信頼し、難しい演技にも挑戦しています。

そこで、10月の全校朝礼では、『びゅんびゅんごまがまわったら』（宮川ひろ 作、林明子 絵、童心社）を紹介しました。

【あらすじ】

運動場に続く遊び場で主人公がおおけがをしました。それ以来大きな鍵がかけられ入ることができません。新しい校長先生に遊び場の鍵を開けてもらうよう頼みにいくと「びゅんびゅんごま」がまわせるようになったらといわれ……。あまのじゃくな校長先生と子どもたちのたたかいです。



次から次へと難題を出す校長先生に対して、「なんとしても遊び場の鍵を開けてもらいたい!」と頑張る子どもたち。「あきらめない心」を持つことの大切さを教えてくれるお話です。

運動会の練習でも、同じような場面に出合います。ダンスを最後まで覚えて、踊ることができるようになったら、次は隊形移動です。その次に言われるのが、「こうしたら、格好良く見える」……。指導する側も子どもたちのモチベーションを維持しながら練習内容を組み立てるのに一生懸命です。子どもたちも教員も「応援してくださる方に、最高の演技を見せたい。」という思いをもって練習に挑んでいます。みんなで知恵を出し合い、協力して、一人ひとりが輝く最高の運動会にしていきましょう。

運動会まで約1週間。ご家庭でも、子どもたちを励まし、できたことを一緒に喜んでいただければ嬉しいです。花里の子全員が「できた!」という達成感を味わってくれることを願っています。

We can do it!
(やればできる!)



だんじりが 花里小にやってきた



10月7日(土)、8日(日)に花里小学校地区の寺本地車保存会によるだんじり祭が開催されました。「子どもたちのために…」と学校の中庭にもだんじりがやってきてくれることになりました。

そこで、10月の土曜教室は、だんじり祭とのコラボです。参加した子どもたちは、だんじりに近づいて見学させてもらったり、乗せてもらったり…。子どもたちはもちろん、付き添いの保護者の皆さんも、だんじりとのふれあいを楽しむことができました。寺本地車保存会のみなさん、貴重な体験をありがとうございました。

コロナ禍で休止されていた地域行事が再開し始めています。花里小学校区には、伝統的な行事がたくさん残っています。これらの行事を続けていくためには、子どもたちが継承者となる必要があります。地域と家庭と学校による ONE HANASATO の協育の一環として、子どもたちが安心して行事に参加し、地域の良さを実感できる環境をつくっていただけていることに感謝します。



11月4日(土)には、「はなさとオータムフェスタ」が花里小学校運動場で開催予定です。